

令和元年度(2019年度)
学校自己評価報告書

令和2年(2020年)6月

学校法人電波学園
名古屋外語・ホテル・ブライダル専門学校

MEIGAISEN

学校自己点検評価委員会

委員長	鈴木	茂樹（校長）
副委員長	栗田	孝義（教務部長）
総括責任者	伊藤	洋子（統括科長/国際エアライン科）
委員	坂口	大介（統括主任/英語科）
	玉澤	直久（教務科）
	市石	浩久（国際ホテル科）
	金井	美香子（ブライダル科）
	神谷	公司（事務長）
	伊沢	政男（広報課）

I	学校の現況	P 1
II	評価の基本方針	P 2
III	教育目標・重点目標	P 3
IV	評価項目の達成及び取組状況	P 4
	(1) 教育理念・目標	P 4
	(2) 学校運営	P 5
	(3) 教育活動	P 6
	(4) 学修成果	P 8
	(5) 学生支援	P 9
	(6) 教育環境	P 10
	(7) 学生の受入れ募集	P 11
	(8) 財務	P 12
	(9) 法令等の遵守	P 13
	(10) 社会貢献・地域貢献	P 14
	(11) 国際交流	P 15
V	学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	P 16

I 学校の現況

(1) 学校名 名古屋外語・ホテル・ブライダル専門学校

(2) 所在地 名古屋市千種区今池五丁目24番4号

(3) 沿革

- 平成 3年4月 名古屋市千種区今池に名古屋外語専門学校を開校
 文化教養専門課程 実用英語科を設置
- 平成 6年4月 商業実務専門課程 国際ビジネス科設置
- 平成 9年4月 実用英語科を外国語学科に改称
- 平成11年4月 外国語学科に英語コースとエアラインコースを設置
- 平成16年4月 国際ビジネス科をホテル観光科に改称
- 平成20年4月 ホテル観光科にブライダルコースを設置
- 平成22年4月 新校舎（現1号館）完成
 外国語学科を廃科し、国際エアライン科、英語科、
 ブライダル学科を設置
- 平成24年4月 名古屋外語・ホテル・ブライダル専門学校へ校名を改称
- 平成25年4月 ホテル観光科を国際ホテル科に、ブライダル学科を
 ブライダル科にそれぞれ改称
- 平成27年4月 国際エアライン科に航空ビジネスコースを設置
- 平成28年4月 国際エアライン科 航空ビジネスコースの学生募集を停止し
 航空ビジネス科を設置
- 平成31年4月 航空ビジネス科を募集停止

(4) 学科の構成

文化教養専門課程	英語科	昼間部
文化教養専門課程	国際エアライン科	昼間部
文化教養専門課程	航空ビジネス科	昼間部
商業実務専門課程	ブライダル科	昼間部
商業実務専門課程	国際ホテル科	昼間部

(5) 学生数および教職員数

学生数：444名

教員数：専任 16名、講師 24名 職員数：3名

(6) 施設の概要（地上6階）

普通教室、エントランス、来客ラウンジ、学生ラウンジ、モックアップ実室
 エアポート実習室、児童英会話実習室、レストラン・バーカウンター実習室、
 英会話実習室、パウダー実習室、バンケット実習室、ゲストルーム、衣裳室
 ブライダルサロン、チャペル、ホテルフロント実習スペース、多目的ホール、
 音楽スタジオ、カウンセリングルーム、図書室

Ⅱ 評価の基本方針

- ・学校としての組織的な取り組みや成果を調査し、現状や評価できる点、問題点および今後の方策や改善スケジュールを導き出す。
- ・教育水準の向上と保証を図る。
- ・教職員が課題意識を共有する。
- ・家庭や地域に支えられる開かれた学校を築き、相互理解を深める。
- ・「ありがとう」と周囲から感謝される学校づくりに役立てる。
- ・個人情報保護や安全確保に留意して作成する。
- ・具体的なデータに基づき客観的に評価する。
- ・学校自己評価を実施して終わりではなく、教育活動や学校運営の改善につなげる。

Ⅲ 教育目標・重点目標

- (1) 本学園の建学の精神は「社会から喜ばれる知識と技術を持ち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、英知と勤勉な国民性を高め、科学技術・文化の発展に貢献する」である。それに基づき、校訓である「国際性・積極性・協調性」を教育信条にして知識・技術・態度を養うことで、社会の一員にふさわしい資質を育てる。
- (2) 本校の学生たちは、航空業界、ホテル業界、ブライダル業界などサービス業界への就職を目指している。それらの業界で求められる基礎知識、および専門知識を十分に教授する。また、グローバル社会に対応できる英語運用能力と国際人としてのマナー、豊かな創造力と応用力のある人財を育成する。
- (3) 本校は“ホスピタリティ教育”を軸に、社会の情勢、変革などを見極めながら毎日の学校生活の中で「建学の精神」を指導、実践する。
特に企業から歓迎される「人柄」、つまりチームにおける協調性や、組織に対する貢献を強く意識できる人財を育てる。

IV. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	④	3	2	1
○学校における職業教育の特色は定められているか	④	3	2	1
○社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
○学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者・関係業界等に周知されているか	4	③	2	1
○各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1

《現況》

完全担任制を採用し、「専門スキル＋語学力＋人間力」を教育目標に学級運営をしている。特にチームワークについて深く学び、仲間と協働することに価値を見い出せる学生が育っている。また、学科に対応する業界のニーズに応えるため、年に2回、企業の担当者、保護者を迎え教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会を行い、教育課程に反映するようにしている。

《課題と改善策》

会社が求めることと学生が求めることには差異があり、教育には時間を要する。しかし、1年次の一月には本格的な採用活動がスタートするため、各担任が苦労するところである。日々の授業とともに、ホームルーム、学校行事などの学内活動を通して社会に貢献できる人財となれるよう粘り強く教育活動を続けたい。

《特記事項》

特になし

(2) 学校運営

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1
○目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
○運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1
○運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④ 3 2 1
○人事、給与に関する規程等は整備されているか	④ 3 2 1
○教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④ 3 2 1
○業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1
○教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4 ③ 2 1
○情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 ③ 2 1

《現況》

年度始めに理事長および学校長から全教職員に「運営方針」が発表される。その方針に従い、前年度中に計画された事業計画とともに学校運営に当たっている。意思決定等についても運営会議、協議会、各種委員会などの組織が確立され、有効に機能している。

《課題と改善策》

各種データの一元管理や効率的に運用できるシステムの構築は年々進んでいる。しかしながらまだまだ整備すべきことは残されている。専任の担当者により整備中である。

《特記事項》

全教職員が管理データを活用でき、ペーパーレスのシステムを確立できるよう整備、検討を進めている。

(3) 教育活動

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
○教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
○学科のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
○キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
○関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1
○関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
○授業評価の実施・評価体制はあるか	4	③	2	1
○職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
○成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
○資格取得等に対する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
○人材育成目標に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1
○関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
○関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
○職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

《現況》

職業実践専門課程認定学科設置校として各科毎に教育課程編成委員会を設置し、カリキュラムの内容について検討している。また、関連分野における知識と技能を習得できるよう業界の実務経験者を配置し教育を行っている。

教職員の資質向上については、学内教務研修会、姉妹校授業見学研修会、電波学園本部による授業見学研修会を実施。さらに外部研修会として教員がホテルインターンシップ、フィリピン航空ワンデイトレーニング等に参加し、授業力のブラッシュアップに役立てている。

《課題と改善策》

国際エアライン科、ブライダル科、国際ホテル科の学生については、インターンシップ先が複数確保されている。しかし英語科については児童英会話教室に少数名が参加できるとどまっている。教育課程編成委員の先生方のご意見等もいただきながら、英語運用能力を高めるためのインターンシップ先確保に努力したい。

《特記事項》

令和2年4月、四年制の「英語本科」設置。

(4) 学修成果

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
○資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
○退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
○卒業生・在学生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1
○卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	④	3	2	1

《現況》

就職実績については、令和元年度においても国際エアライン科は日本航空をはじめとし客室乗務員10名、グランドスタッフ57名の高い合格実績。国際ホテル科は帝国ホテル、ホテルニューオータニなどの老舗ホテル、ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルなどワールドクラスホテルに、ブライダル科は毎年地域最速で全員が有名企業に内定し、学生の夢の実現を果たしている。

《課題と改善策》

英語科は、児童英語インストラクターや、航空業界の輸出入業務、空港地上職等に合格実績があるが、習得した英語力を生かせる職業に就けるよう、さらなる努力が必要である。そのために就職活動のモチベーションアップのための時間や、業界、職種研究のキャリア教育に力を入れたい。

また、退学率は8%台と高い。理由は経済的な事情や精神面の脆弱さもあるが、夢の実現のために一生懸命努力する他のクラスメートの熱さについていけず挫折するという特有の理由もある。引き続き担任の面談等のきめ細かいサポートと、スクールカウンセラーによるアドバイスで退学抑止に努めたい。

《特記事項》

経済的事情で退学を考える学生については、本学園の恒学基金、日本学生支援機構の貸与および給付の奨学金について説明し、アドバイスを行っている。

(5) 学生支援

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○進学・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
○学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
○学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	③	2	1
○学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
○課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
○学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
○保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
○卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
○社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
○高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④	3	2	1
○関連分野における業界との連携による卒業後の再教育プログラム等を行っているか	4	③	2	1

《現況》

就職指導については、各科において受験企業、職種別に徹底的にサポートを行っている。具体的には1年次後期から学内企業説明会を開催。授業後の面接対策補講やカウンセリングは内定を得るまで手厚く行っている。また1年次と2年次に保護者会を開催し、保護者にも各業界の特徴を理解いただきながら、指導にあたっている。

《課題と改善策》

企業の就職面接が盛んになる2月～6月の間、主として面接サポートをする学級担任への負担は大きい。今以上に日頃の授業の中での面接力アップを目指したい。

《特記事項》

全てのカリキュラムが、各分野への就職を念頭においたものとなっている。

(6) 教育環境

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できる よう整備されているか	④	3	2	1
○学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修 等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
○防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

《現況》

施設は各分野の現場を想定した実習室を完備している。具体的にはエアポート実習室、モックアップ実習室、児童英会話実習室、レストラン・バーカウンター実習室、ブライダルサロン、チャペル、バンケット実習室などである。

インターンシップ、海外研修等については各学科の特色を活かしたものであり、職業実践教育の観点ではクオリティの高いものである。

《課題と改善策》

今後発生するかもしれない南海トラフ地震への対応策については、どれだけ準備しても準備しすぎることはない。学園の教務委員会において、危機管理マニュアル作成のための分科会を発足し、大地震・津波等の事例に基づいてマニュアルを完成した。これを一つの完成形として、他の事例についても随時作業を進めている。

《特記事項》

平成30年度からシェイクアウト（地震防災）訓練を実施している。

また、本校は災害時の緊急避難場所等として地域社会に協力する旨の「大規模災害時における地域と事業所との支援協力に関する覚書」を結んでいる。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか	④	3	2	1
○学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
○学生募集活動において、教育成果（資格取得・就職状況等）は正確に伝えられているか	④	3	2	1
○学生納付金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

《現況》

高校の進路指導室訪問、高校での進学説明会等で就職実績、資格取得状況等の正確な情報提供を行っている。学生募集活動の要である体験入学では、各科から多くの在校生が「お手伝いスタッフ」として参加協力し、高校生に生の声を届けてくれている。

《課題と改善策》

英語科、国際エアライン科は外国語系大学と分野が競合し、毎年学生募集に奮闘している。令和2年4月から四年制の「英語本科」を設置。3年次に全員が海外の大学に留学し、海外の大学の卒業も目指せるカリキュラムとなっている。大学以上に英語学習に特化した英語本科の設置で、英語系専門学校としての知名度を高められるよう努めたい。

《特記事項》

学生募集時の情報提供は正確かつ誠実であるべきと考えている。入学者の卒業後まで考えた真摯な学生募集でありたい。

(8) 財務

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
○予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	③	2	1
○財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
○財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

《現況》

- ・適正な学生数を確保や教職員の経費節減意識により、学校の財務基盤は安定している。
- ・収入、支出を予算化することにより、収支バランスが把握できている。

《課題と改善策》

- ・中長期的な財務基盤の安定について、今後の学内組織の変更、教職員の構成の見直し、経費節減等の施策を実施していく。
- ・収入、支出を目的ごとに予算化しているが、計画外の予算が一部あるため、教職員全体で予算化の必要性を理解し、共通認識として取り組んでいく。

《特記事項》

- ・会計監査は、毎年1回公認会計士により、会計帳簿、帳票伝票等並びに現金、貯蔵品等の証憑突合監査が行われている。また、内部監査規程による内部監査（年3回）を行っており、適正に実施されている。

私立学校法に従って、当該年度の財務諸表及び事業報告書を、毎年5月末日までに作成し、理事会の決議を経て、学園法人事務局に常備し閲覧できるようにしている。財務情報（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、財産目録、監査報告書）は学園のWebサイトにて毎年更新公開している。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
○個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
○自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	③	2	1
○自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

《現況》

- ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営を行っている。
- ・個人情報に関するセキュリティポリシーに従って個人情報の管理等を行っている。
- ・自己評価結果を公表している。

《課題と改善策》

学生募集イベント時の写真撮影は、参加した高校生が写真に入り込まないように努めている。しかし、一部参加者が写ってしまった画像を SNS 等で使用したい場合には、何らかの画像処理を行うか、本人に掲載許可を取るなど、適宜適切な対応を図っている。

《特記事項》

学園の教務委員会において、「学園教職員 SNS 使用時のガイドライン」、「学園各校の公式 SNS アカウント利用担当者に対するガイドライン」を各設定し、そのガイドラインに沿って SNS 運用を実施している。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1			
○学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
○学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
○地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

《現況》

高校との連携によるキャリア教育・職業教育の一環として、複数の高校からの依頼で高校生向けに「マナー講座」、「就職面接対策講座」を実施。また、高校教員対象の「就職面接指導のポイント講座」を行った。さらには高校生の資格取得対策講座として「IS9001 内部監査員養成セミナー」も実施し、学びへの貢献をしている。

《課題と改善策》

担任業務、授業がある中で、各所からの依頼に対応するための日程調整に苦慮している。しかし、今後も社会貢献ができるよう努めたい。

《特記事項》

ボランティア活動

(1)国際エアライン科の学生による歌と踊りのサークル「青春ガールズクワイア」が、地域振興策の一環として、セントレア、アスナル金山、ららぽーと名古屋などの商業施設の依頼を受け、クリスマスイルミネーション点灯式ライブなどを行っている。

(2)海外研修時に、フィリピン・マニラの貧困地区トンドにおいて、幼稚園でのボランティアを行っている。

(11) 国際交流

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4	③	2	1
○留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1
○留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④	3	2	1
○学修成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	③	2	1

《現況》

留学生の受入れ、在籍管理を適切に行っている。国際交流については法人事務局国際交流室が主導で行い、依頼に応じて適宜対応している。

《課題と改善策》

留学生の入学希望者からの問い合わせが増えているが、日本語能力がN2に達しておらず、受け入れられないことも多い。この件については、入学後の授業内容や学内・外活動の観点からやはりN2以上を取得していなければ入学許可はできないと考える。

《特記事項》

令和元年度、これまでの提携校に加え、カナダ・ナイアガラカレッジとの学術交流協定を締結した。

V 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

引き続き教育機関として教育水準の向上と保証に努めた。本校が設置する学科分野である航空業界、ホテル業界、ブライダル業界などのサービス業界で求められる基礎知識、および専門知識を十分に教授することが私たちの使命であると考えている。また、グローバル社会に対応できる英語運用能力と国際人としてのマナー、問題解決に向かえる豊かな想像力と応用力も身に付けさせたい。

本校に入学する学生たちの基礎学力は様々であり、出身高校も普通高校、商業高校、工業高校、農業高校、通信制高校など多様である。学力がどの水準の入学生であっても、「専門スキル＋語学力＋人間力」の育成が図れるよう、完全学級担任制を採用し、卒業までに最大限の成長が遂げられるよう努めている。

その結果、就職実績は令和元年度においても質の高い実績を出すことができた。具体的には、国際エアライン科はJAL、ANAを含む客室乗務員に10名、グランドスタッフに57名と質の高い合格実績。国際ホテル科は帝国ホテル、ホテルニューオータニなど一流老舗ホテルや、ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルなど世界的著名ホテルに数多く合格。ブライダル科は、毎年地域最速で全員が有名企業に内定し、学生の夢の実現を果たしている。一方、カリキュラムが就職に直結していない英語科については、留学のほか児童英語インストラクター、航空貨物（輸出入業務）スタッフに合格しているものの、まだまだ高い進路実績があるとは言えない。本校での学びが社会で生かせるよう、キャリア教育にさらに力を入れていきたい。

また、令和2年4月、四年制課程「英語本科」を設置。3年次に全員が海外の大学に留学し、条件を満たせばそのまま留学先大学の卒業も目指せるカリキュラムである。もちろん4年次に本校に戻り、日本での就職を目指すこともできる。大学以上に英語力向上に特化したカリキュラムの英語本科の設置にともない、英語系専門学校としての知名度を高められるよう努めたい。

最後に、本校では有名企業に就職させることが教育のゴールとは考えていない。身に付けた学びを基礎に、社会というチームの中で組織や仲間と協働することに価値を見出し、豊かな人生を送ってくれることが最大の願いである。これが「名外専ブランド」であると考えている。

以上